



語りかける力

Power to Communicate

後藤 顕之輔
Kennosuke Goto

EICA 名誉会員

夏の暑い盛り、住宅街を歩くと非常に主張している樹に出会う。百日紅、別名をさるすべりという。その名から想像されるように樹肌が滑らかで美しいが、やはり紅色の花が語り掛けてくる。百日紅は中国の故事、悲しい恋物語をもつ漢名である。この花は夏の初めから秋深い10月頃まで約100日間咲き続ける。路地を歩きながら、微妙に色の違う花々に話しかけながら歩く。白い花は清楚な貴婦人を思い浮かべる。花言葉を「雄弁」というのを最近知った。

同じ時期にさるすべりと競って咲く花に凌霄花（ノウゼンカズラと読む）がある。私は自分の田舎の百姓家の住いには、この樹を家の北庭に植えている。橙赤色の大きな花は、強い陽射しではなく、柔らかな光の中では、遠慮がちに、それでも強く語りかけてくる。于蘭盆会の頃、北側の広縁に座って昼前の一時を過ごしていると、大きな漏斗形の花は全てこちらを見せて語りかけてくる。そんな時、故人を偲びながらつい長話に浸る。

このように強く派手に主張する花に比べ、ひっそりと木下闇（こしたやみ）に咲く花々もそれぞれに語りかけてくる。

話は変わるが、私は電気機器製造の会社に入社し、一年間の製造現場実習を終えて、製品の検査部門に配属された。製鉄事業や化学工業の製造プラントの制御装置の検査である。現在ではプラントのコントロールは計測も制御もデジタルであるが、約50年前は全てアナログ制御であった。工場の中ではお客様の最終製品は無いので、シーケンスのチェックを終え、自動制御のチェックは製造工程の各区分毎に入力と出力の模擬回路を造り、充電して働きを確認してゆく。お客様の製造現場に搬入されて、機械設備に組み込まれた電動機や位置検出器や速度検出器に接続される。機械設備から入力される情報を取込み、自動制御演算を行い、最終製品の原料の投入量や製品の送り出し速度等を調整し、プラントを完成させてゆく。アナログ系の制御は工程が有機的に連繋して、原料から製品へと流れてゆく。最終製品の生産をされる運転員や維持管理の方、そして機械装置の設計者や検査員の方々と綿密な調整を続ける。

こうしてプラントは、製鋼プラントであれば“火入れ式”が行われ、霊が入り、自律し、生命を持つ。お客様の事業計画の中で、時間との闘いをして、この製品たちと幾夜を共にしてきたかと思うと本当に愛しみを感ずる。

調整がうまくいかず壁に突き当たっても、声をかければ応えてくれ次に進む。稼働を始めてお客様の試験

運転から、徐々に本運転へと移り、製品を正確に創り出せるようになると私達は現場を離れる。愛しい我が子を社会に出す時のような気持ちになり、そっと「しっかり頑張れよ」と言って去る。

ある時、私はクレームの処理に姫路の棒鋼製造をしている現場に向かった。ビル等のコンクリートの鉄筋を造るプラントで、稼働して数年を経っていた。その鉄筋材が少し細くなる傾向にあるという。連続した圧延機の押し出す力と引張る力の調整が、うまくいかなかったということであろう。しかし、私が社内検査や現地で立上げ検査をしている訳ではなかった。上司からA3版で厚さ20cm位の分厚い図面を持たされ、初めて対面する製鋼プラントであった。整然と並ぶ圧延機の前を真赤に焼けた鉄の塊のインゴットが徐々にオレンジ色の線材へと変化し目の前を走っている。工場の中には人影はほとんどない。機械群が、一定の機械騒音の中で整然と鉄製品を創り続けている。線材が細くなるという不良については、運転されている方が微妙な手動による調整を加えて補い、凌いでいるのであろう。「どこが具合悪いの？」と機械に聞いてみるが返事はない。

私はぶ厚い図面を抱えて電気室に籠った。何拾メートルも並んでいる配電盤には、電動機の電流計や現場から計測された数値のメーターが目まぐるしく動いている。“呆然と”，に近い状況でしばらく配電盤群と対峙していたが、ある感情を持った。無数にある計測器のメーターが私に話し掛けているのだ。「よし、今夜はこの配電盤と語り明かそう」と決めると、電気室の一角に座り込んだ。

予測される故障を想起しながら、話し掛けてくるメーター群の語る症状を突き合わせる。時々症状を確認する為、テスターで調べる。図面を見ながら症状を読み取り、朝方には一つの結論に辿り着いた。出勤して来た維持管理の長に予想される不具合の小さな補助継電器の交換を提案して、製鋼プラントを停止して戴いた。処置が終り、再度起動したプラントは順調な製品製造を開始した。運転員の方、維持管理の方に感謝の意を頂いた。その日は春真っ盛りの金曜日、姫路城の桜の下での花見のお誘いを頂き、つい羽目を外す醜態を演ずることになった。

私は43年間の会社人生を終えて、田舎の山中で百姓仕事に勤しんでいる。野良仕事に出ていると多くの動物に出逢う。野ウサギ、小鳥、カラス、トンボ。私は皆に声を掛ける。残念ながら、最近私の畑や筥の藪を荒らす猪とは会話がな